



竣功を迎えた御幸殿

護
玉

終戦七十年記念事業

御幸殿竣工

宮司額田照彦

この度の終戦七十年記念事業の重要な事業であります「御幸殿」の竣工祭が、平成二十八年九月二十日に、約百名のご参列のもと、盛大且つ厳粛に斎行されましたこと、茲にご報告申し上げますとともに、ご奉賛ご支援ご協力賜りました御遺族・崇敬者・友好団体・関係各位のすべての皆様にあらためまして有難く厚く御礼申し上げます。

この終戦七十年記念事業の内容は、「終戦七十年臨時大祭斎行」「御本殿の一部改修工事」「神橋改修整備工事」等が完工し、十月十日天皇陛下御下賜の幣帛料を御供えし「臨時大祭」を斎行致しました。記念事業の主体であります「御幸殿の建設」は九月二十日に竣工し、御幸殿一階に設置予定の「祈念史料室」につきましては、展示方法、機器の設置等検討準備の上、来年秋の開設を予定しております。

この「祈念史料室」の開設を以って、終戦七十年記念事業の完遂となります。祈念史料室の開設、事業完遂時に際しましては、ご奉賛を頂きましたすべての皆様のご芳名を記録し、御本殿に保管をし、更に特別のご奉賛を賜りました皆様方には、その顕彰の記念碑を境内

御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております
御祭神は四万九千七百一十七柱です。

に設置させて頂く予定でございます。

さて、今年八月十五日の終戦記念日を前に、ある御遺族の「我が家の終戦記念日」と題された手記を拝読させて頂く機会がありました。

そこには、先の大東亜戦争により、苦難苦闘

の道を歩まれる事となつた、御祭神、英靈の姿と、同じく戦争によって難波の道を歩まれる事となつた御家族・御遺族の姿、歴史が、その記憶を留めるべく綴られていました。音信も途絶え、消息を案じていたところ、終戦の三ヶ月程前に、突然の戦死の公報により、その死を告げられ、茫然とし、泣き崩れた事、終戦の日を間近に控えた、昭和二十年七月二十六日のあの松山空襲のその日に、位牌だけ入ったお骨箱をお寺へ取りに行つたこと。

戦後四十五年の月日を経て、亡き父と、苦難苦闘を共にした戦友の方と巡り合い、戦地での様子や戦没の地、命日の真相真実を知る事ができた事等が、綴られていました。

この御遺族に限らず、全ての御遺族に戦争の記憶、歴史とそれぞれの「終戦の日」への想い、御靈に対する想いがあると思います。

この御遺族は、毎年欠かさず御命日にお参り頂いておりますが、御祭神の妻であられるお母様も、優に九十歳を越える年齢となられております。御遺族の高齢化と、次の世代への継

承が、大切な事となつております。家族を想い、国の為、郷土の為、出征され苦難の道を歩まれた、御祭神、英靈のご遺徳により、今日の平和と繁栄がある事は言うまでもありません。

次代を担う世代に対し、英靈のご遺徳と、先人の苦難の歴史を伝え、報恩感謝・慰靈顕彰の想いを、未来永劫伝えていくことが、国の為尊い命を捧げ散華された、英靈の御心に応えることであり、我が国の平和と繁栄の為に、大切な事であると思います。

来年秋開設予定の「祈念史料室」が英靈のご遺徳と苦難の歴史を次の世代、後世に伝え継承していく為の一助の施設となり、国の平和と安寧を祈念する施設となればと願っております。

「御幸殿」の竣工により、終戦七十年記念事業もこの「祈念史料室」の設置開設を残すのみとなりました。

これまで事業に対しご理解とご協力ご支援を賜りました、すべての皆様方に改めまして感謝御礼申し上げますとともに、皆様方の益々の御健勝をお祈り申し上げます。

また今後とも英靈の慰靈顕彰、神社護持運営に引き続き、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

被曝者への治療 鳥取陸軍病院史より

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 愛原

章



戦没者芳名録を作成中に、島根県の旧陸軍病院跡地を、ある学芸員から教えてもらつたが、その時、頂いた「鳥取陸軍病院史」の中に、「終戦前後」という項目があつて、次のような記述があつた。

「それは、広島より還送されていた七、八名の特殊爆弾による火傷患者についてである。その当時特殊爆弾というのみで、その本体が明かされていなかつたので、單なる火傷患者として治療していたのであるが、本院に引き揚げて間もなくの事、その患者の中に突如として高熱を発するものあり、次第に耳殻の軟骨が露出し、その軟骨も崩れ、頭髪は脱落します。

歯も抜け、口腔内出血を来す等の異変がおこり始めたのである。此は只の火傷ではないと

氣付き、諸種の検査を行った所、重傷患者程、

血液中の赤血球、白血球の減少が著しいとい

う事が判明、受爆後、赤血球、白血球の生存

期間の終焉に近づいて起つた現象で、それは

造血機能の停止を意味し、特殊爆弾とは、原

子爆弾に相違ないと判断し、傷名を原子爆弾

症と命名した。治療としては輸血に勝るもの

なしとして、毎日連隊より多数の兵隊を寄越

して貰つて血液検査の上、大量の輸血を反復

行つた。広島より還送になつた原子爆弾症患

者は全部で六十名、毎日六十名の輸血と云う

事は大変な仕事であるので、終戦後であるに

も拘わらず、三名の軍医見習士官が招集によ

り増員され、必死の治療に当たつたのである

が、六十名中十名は、造血機能の回復を見る

ことなく遂に他界した。しかし、後に判明し

た事であるが、傷名を原子爆弾症と決定した

事、治療として輸血に重点を置き之を反復行つ

た事は、誠に当を得た処置であつて、六十名

中十名の死亡者は決して多い方でなく、他の

病院に対し好成績であった事は、疑を入れぬ

所である。

退院した五十名の追跡調査が、行われてい

る。歴史が伝わつて来る。
　広島では、憲兵が被爆写真を没収して処分し、上陸した米軍は、被爆資料を全て押収して持ち帰つたという。

辛うじて残つた写真と、米軍から返還された一部の写真等が、現在展示されたり本になつたりしている。

目的は異なるが、お互いに記録を隠す行動に出たのである。恐らく長崎についても同じだろう。

従つて、こうした記事が残つているのは珍しいと言つていい。

そうした中で、日の目を見ることのなかつた資料に「原爆が投下された八月六日現在、広島市内に禁足を受けていた医師の二百九十八名中、二百七十名が被災し、このうち六十八名（凡そ二割）が死亡したとあり、二十八年後の昭和四十八年に健在だった者は、二十八名（被災者の凡そ一割）だった。」という記事があるのを見付けた。

多分、鳥取陸軍病院を無事退院した人達も、恐らく同じような道を辿つたのではないかと、私は思つてゐる。

被曝死した御靈の、永久に安らかならんことを祈つてゐる。

「御幸殿」竣工に感謝
　愛媛県遺族会 会長 関 谷 勝 則

愛媛縣護國神社終戦七十年記念事業として新しく斎館「御幸殿」が完成。諸行事を行うことができる広間ができました。

遺族会も賛同して協力し、英靈の写真や遺品を祀る祈念史料室も来秋には設けられる予定です。

大勢の方々のご協力ご支援のお陰で竣工式を九月二十日に終え、感謝の念でいっぱいです。このように書くと、記念事業が何の苦労もなく淡々と進捗したようと思われるでしょうが、実はそうではありませんでした。大変な苦労がありました。

詳しくは述べませんが、小川純生前宮司、額田照彦宮司、池田丈志爾宜、愛原章氏、新

多鐵男氏、池見健式氏のご苦労、そして大勢の方々の奉賛金によって御幸殿が完成しました。

ここに改めて心よりお礼を申し上げます。

かつて滋賀県知事を務められた国松善次氏が、大変嘆いておられたことがあります。

国松氏は、何年もかけて全国の護国神社を自転車で訪れ、行く先々で「護国神社はどちらにありますか」と尋ねた際、「知りません」という答えが多かったそうです。

観光案内所の職員ですら知らない県もあり、唖然としたそうです。まったく私も同感です。

戦後の占領政策において、日本の歴史と宗教を排除した所以であり、道徳心のない人間は一生、満足感を得ることはありません。

さて、今や世界は国際社会で、自国一国だけでは成り立ちません。

ところが、中国は南シナ海において国際裁判所の判決に従わず、開発を進め実効支配を強めています。法を無視した力による違法行為そのものです。

善惡の判断の基準は、どこにいったのかと思わざるを得ません。

後世の若者に、善惡の基準をどのように教えればよいのでしょうか。個人はいうに及ばず、国家としても正しく努力した国家が発展する国際規範でなければなりません。

無法打破のために止む無く武力行使に走つ

たりする事がないよう懸念します。

英靈を祭神として祀り、不戦を誓う護国神社が、国民の「心の」拠り所として、益々発展することを祈っています。

英靈顯彰の思い新たに

英靈にこたえる会愛媛県本部

会長 佐伯 要



平成二十三年から英靈にこたえる会愛媛県本部の会長を務めています。

私の父がビルマで戦死した先の大戦が終わってから、早くも七十一年の歳月が流れました。当時生まれたばかりの私に、父の記憶はありません。

長く苦しい戦いの中で、祖国と同胞の平和と繁栄を願いながら、かけがえのない命を國家に捧げた英靈の無念に思いをはせると、改

めて悲痛の思いが胸に迫ってまいります。

我が国は、国民一人一人の、たゆまぬ努力によつて平和国家の再建と目覚しい経済発展を遂げました。

今日、私たちが、当たり前のように思つて

いる平和と繁栄は、壮烈な戦禍の中に倒れ、眠つてゐる英靈の尊い犠牲が礎となつてゐることを決して忘れてはならないと思います。

このほど、英靈を祭神として祀つていただいている愛媛縣護國神社の「終戦七十年記念事業の御幸殿」が無事竣工の運びとなりました。

これは、遺族の喜びであると同時に英靈に報いることだと思います。

完成した御幸殿の中に来秋設けられる予定の祈念史料室に英靈の写真や遺品が整理され、いつ遺族が神社に参拝しても御靈に会えるようになります。

歳月の流れは早く、英靈の妻は既に大半が亡くなり、英靈の兄弟姉妹、甥、姪や遺児も高齢化が進んでおります。

悲惨な戦争の歴史と記憶を風化させることなく、平和の大切さと尊さを英靈の孫やひ孫等に語り継ぎ、今後一層、英靈顯彰に取り組んでいく決意を新たにしています。

英靈が安らかに眠り、遺族を見守ってくれることを心から祈念してやみません。

終戦七十年記念事業 御幸殿竣工



地 鎮 祭 (平成 28 年 1 月 15 日)



御 幸 殿 全 景



西側から見た御幸殿

終戦七十年記念事業 御幸殿竣工



祈願受付・控所



会議室・研修会場



来秋開設予定の祈念史料室

正式参拝



☆平成二十八年五月三十一日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷 勝嗣様

計三十名

☆平成二十八年七月十四日

広島護国神社

宮司 藤本 武則様

計十一名

☆平成二十八年八月六日

愛媛県瓦工事業組合

副理事長 安永 教一様

計十五名

☆平成二十八年四月一日
ニューギニア慰靈友好遺児の会
代表 中川 祐吉様
計十七名

☆平成二十八年六月二十一日
西条市遺族会
会長 高橋 正徳様
計五名

☆平成二十八年四月二十五日
本邑 喜代一様
計四名

☆平成二十八年六月二十二日
愛媛県遺族会評議委員会
会長 関谷 勝嗣様
計二十五名

☆平成二十八年六月二十八日
愛媛県神社庁松山支部城東分会
分会长 田内 逸知様
計十名



☆平成二十八年八月六日
NPO法人まつやま山頭火俱楽部
理事長 熊野 伸一様
計五名

☆平成二十八年八月十四日
三宅浩正事務所
愛媛県議会議員
三宅 浩正様
計二十名

☆平成二十八年七月二十一日
廣島護国神社
権宮司 林 友昭様
計十一名

☆平成二十八年七月八日
英靈にこたえる会愛媛県本部
会長 佐伯 要様
計三十二名

☆平成二十八年七月二十一日
伊豫豆比古命神社
宮司 長曾我部 延昭様
計十一名

☆平成二十八年八月十五日
伊豫豆比古命神社
宮司 長曾我部 延昭様
計十一名